

福岡市立こども病院における
国家戦略特別区域
高度医療提供事業について

病床規制に係る医療法の特例による病床の増床

平成27年3月25日

地方独立行政法人福岡市立病院機構 理事長 竹中 賢治

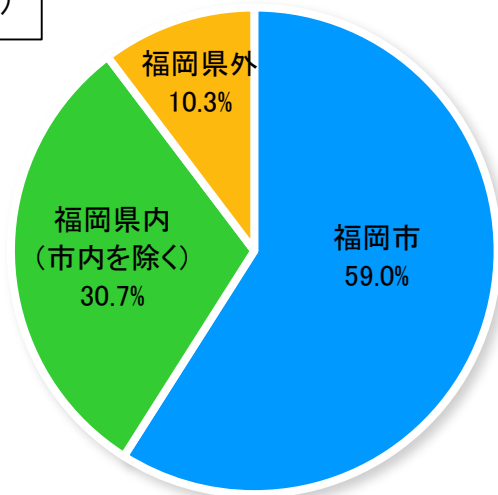
1. 福岡市立こども病院について



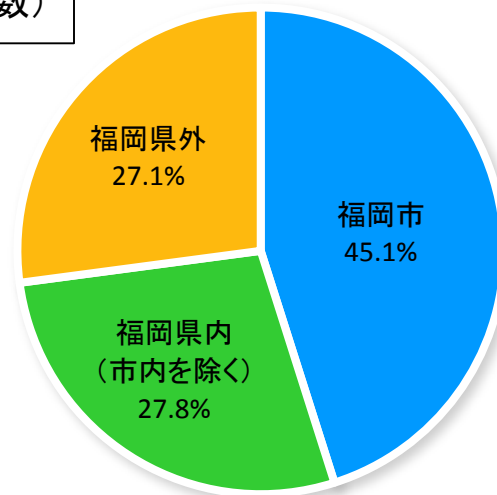
- 西日本で唯一の小児の高度専門医療機関
- 先天性心臓病の手術では国内有数の実績
- 九州・西日本一円から広く患者を受け入れ
- 病床数233床、手術室7室

[地区別患者数(平成26年11月～平成27年2月)]

外来(延患者数)



入院(延患者数)




2. 福岡市立こども病院における取り組み

双胎間輸血症候群(TTTS)における胎児鏡下胎盤吻合血管レーザー凝固術(FLP)による治療の実施及びその周産期管理

福岡市立こども病院
平成26年11月 新築・移転

- 新たな医療機器の整備
- 人材の確保
(技術及び一定症例数の経験が必要)

- 
- FLPの届出施設がなかった九州において治療を実施する体制が整う
 - 臨床試験が進められているTTTS関連疾患に対するFLP治療の応用についても対応予定

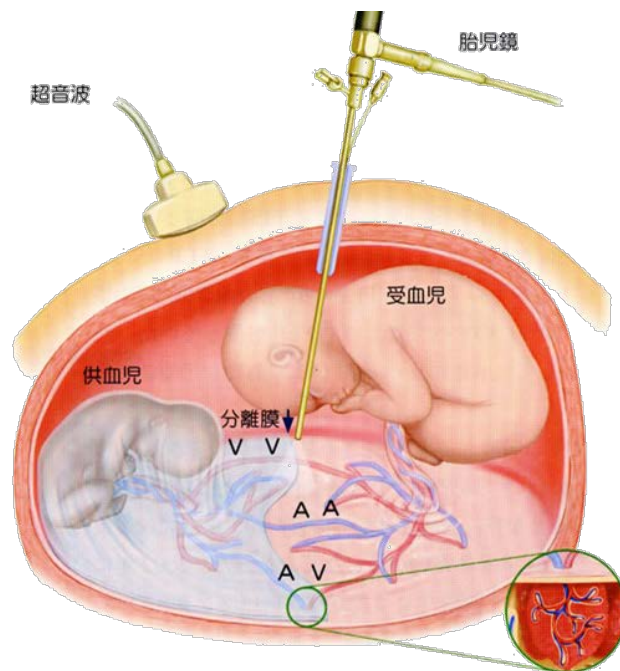
3. 双胎間輸血症候群(TTTS)について

双胎に起こる特殊な病気で、ひとつの胎盤内で血管のつながり(吻合血管)があり、双胎間に慢性の血流のアンバランス(不均衡)が生じることで発症

供血児

：血液を送り出している胎児

- 貧血
- 低血圧
- 乏尿
- 羊水過少
- 循環不全
- 発育不全
- 腎不全
- 胎児死亡



受血児

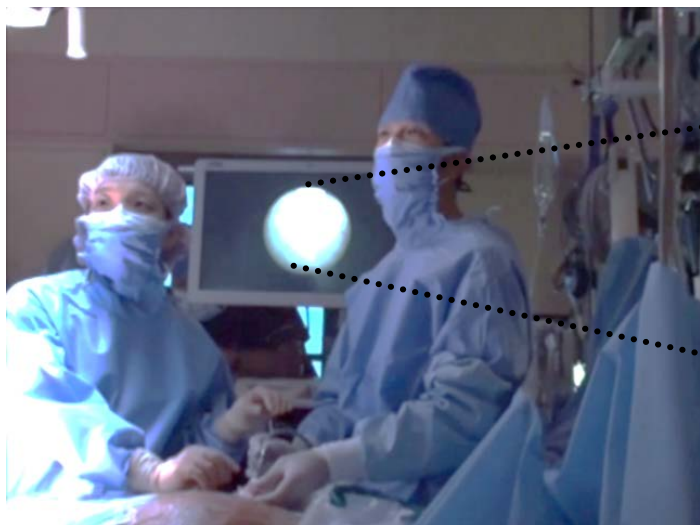
：血液を余分にもらう胎児

- 多血
- 高血圧
- 多尿
- 羊水過多
- 循環負荷
- 心不全
- 胎児水腫
- 胎児死亡

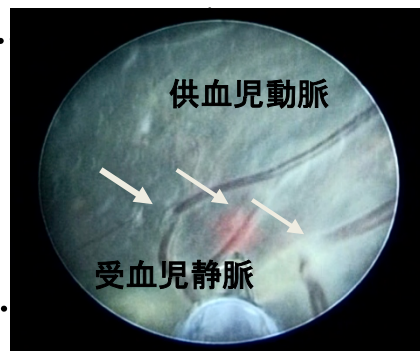
- どちらか一人の児の病気ではなく、両胎児とも状態が悪くなることが特徴
- 無治療ではどちらの胎児とも救命が困難
- TTTSは全分娩の0.03%、TTTS関連疾患(一児発育不全等)もほぼ同数程度発生

4. 胎児鏡下胎盤吻合血管レーザー凝固術 (FLP) について

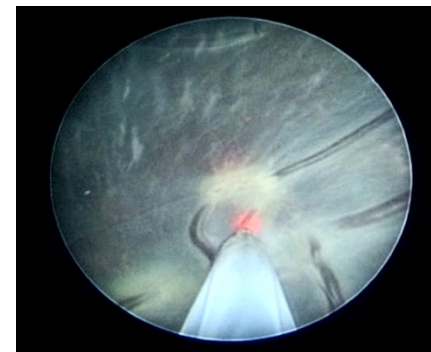
- ▶ レーザーにより、吻合血管を焼灼することで、血流のアンバランスを取り除く根本治療で、今世紀に入り日本で導入された新しい治療法
- ▶ 対症療法である従来の羊水除去術と比べ、生存率、神経学的後遺症ともに大きく改善されており、日本の治療成績は、FLP治療先進国と比較しても遜色ない



当院におけるFLP治療の様子



凝固前



凝固後

- 胎児鏡を使っての胎盤表面で繋がった血管の同定、術前術後の周産期管理など、高度な技術と経験が必要
- 発生確率から想定される患者数に比べると、普及は不十分

5. 国内におけるFLP治療の普及と実施における課題



- 国内では福岡市立こども病院を含めて8施設のみ限定して年間150例程度実施
- 九州においては福岡市立こども病院のみ



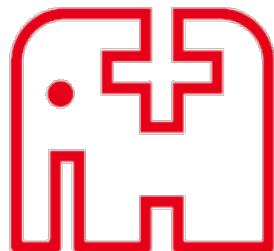
福岡・糸島二次医療圏にとどまらず、九州・西日本一帯を含む極めて広域的な対応が必要

6. 福岡市立こども病院におけるFLPの実施について

福岡市立こども病院でFLP治療を実施することにより

- 市域や県域・九州を越え、近隣の国外患者を含め、より多くの患者に対して有効な治療を行うことが可能
- 生存率の上昇や神経学的後遺症の減少など医療水準の向上に寄与

九州内での発生症例数から母体管理、胎児治療並びに分娩時及び出生後の周産期管理のための病床として、6床の増床が必要



福岡市立こども病院 基本理念

すべてのこども達やご家族の健康と明るい未来を願い、
時代にふさわしい病院を目指します。